

議 事 録

会議名	令和4年度第2回寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定等外部委員会		
開催日時	令和5年2月3日（金） 午前10時から午前11時30分		
開催場所	寒川町役場東分庁舎2階会議室		
出席者名、欠席者名及び傍聴者数	<p>【出席】 委員 森委員、橘委員、千葉委員、石黒委員、梅村委員、吉田委員、横山委員、布谷委員、大山委員、木村委員</p> <p>寒川町企画部 深澤企画部長 企画政策課 小林企画政策課長、山下主査、赤崎主任主事、北田主任主事、原主任主事、永井主事</p> <p>【欠席】 岡本委員、金子委員、竹村委員、大澤委員、二見委員</p> <p>【傍聴】 1名</p>		
議 題	(1) 委員長及び副委員長の選出 (2) 寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2期）令和5年度実施事業について (3) その他		
決定事項	委員長 梅村委員 副委員長 千葉委員 議事録承認委員 梅村委員		
公開又は非公開の別	公開	非公開の場合その理由（一部非公開の場合を含む）	
議事の経過	開会 挨拶 深澤企画部長 委員自己紹介		

議題（1）委員長及び副委員長の選出について

【事務局】

委員長・副委員長につきましては、寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定等外部委員会設置要綱の第5条において、委員長、副委員長は委員の互選によるとされてございます。

本来であれば、任期が始まりました令和3年度第1回の会議において、委員長及び副委員長を決定すべきでございましたが、コロナ禍の影響により、任期中における対面での会議は、今回が初めてとなります。

なお、今回は初めての委員会でもございますので、事務局といたしましては、当委員会発足以来、委員長を務められて、学識経験者でもあられます梅村委員に委員長をお願いできればと、事務局としては考えてございますが、皆様いかがでしょうか。

（異議なしの声あり）

【梅村委員】

ありがとうございます。お願いいたします。

【事務局】

委員長につきましては、梅村委員にお願いできればと思います。梅村委員、よろしくお願いいたします。

【梅村委員長】

先ほども御紹介いただきましたが、本委員会は早期から関わらせていただいております。当時は茅ヶ崎にある湘南キャンパスにおりまして、住んでいたというような御縁から、参画させていただいております。よろしくお願いいたします。

【事務局】

それでは、ここからの議事進行につきましては、梅村委員長お願いいたします。

【梅村委員長】

議事を進めさせていただきます。議題1としまして、副委員長の選出について進めていきたいと思いますが、事務局からの案があるようでしたらお願いします。

【事務局】

地方創生の取組では、町外の方を寒川町に呼び込み、定住してもらい取組を進めておりますので、活気ある地域づくりのため、日頃より青年会議所において御尽力されている千葉委員にお願いしたいと考えます。いかがでしょうか。

(異議なしの声あり)

【梅村委員長】

それでは、千葉委員、よろしくお願いいたします。

【千葉副委員長】

副委員長として選出されました千葉と申します。青年会議所は、20歳から40歳までの会員が、地域や自分たちのために様々な地域課題に対し、活動をしていただいております。その観点からも、様々な立場で、今回の会議を進めていければと思います。よろしくお願いたします。

【梅村委員長】

ありがとうございます。議事を進めてまいります。

議事録承認委員の指名についてですが、対面会議ということもございまして、私に対応しようと思いますが、よろしいでしょうか。

(はいの声あり)

【梅村委員長】

それでは、続きまして議題2に進行させていただきます。

議題 (2) 寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略(第2期)令和5年度実施事業について

【梅村委員長】

事務局の説明をお願いいたします。

【事務局】

資料に沿って、寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2期）の概要及び令和5年度実施事業の説明

【梅村委員長】

御説明ありがとうございました。オンラインで出席している都合上、タイムラグが生じています。ここから先の進行を千葉副委員長お願いできますでしょうか。

【千葉副委員長】

承知いたしました。御意見ある方はお願いします。

【布谷委員】

J:COMの布谷です。御説明いただいた中で、4番教育事業について、東京のバスツアーをおっしゃっていました。概要を教えてくださいいただけますか。

【事務局】

御説明させていただいた東京都の英語村のバスツアーです。TOKYO GLOBAL GATEWAYというところですが、こちらは、東京都が民間に委託している施設ですけれども、例えばレストランで外国人の方とお話する機会があったり、本当の場面を想定したシミュレーションで英語を話すことができ、英語がこうやると伝わるという体験や、英語を話すことの楽しさが、体験できる場所になっております。

そういった場所に寒川町の子どもたちを連れて行って、英語の楽しさや話せる体験をしてもらうツアーです。

【布谷委員】

ありがとうございます。非常に素晴らしい取組だと思ひまして、発信の仕方や今後の目標などあれば、教えていただけますか。

【事務局】

本年度のバスツアーの人数の数字を持っていないので、分からないところですが、好評で多くの方に応募をいただいているところでございます。今年度は秋ぐらいに開催させていただいて、もちろん広報でも周知をいたしましたし、寒川町の公式LINEアカウントでの周知など、様々な方法で周知いたしました。なので、今後、開催する際は広く周知していきたいと思っております。

【千葉副委員長】

ありがとうございました。他にいらっしゃいますか。

【木村委員】

令和5年度より小規模保育事業が新たに開設されると伺いました。新しく子ども園、保育園ができるということですか。

【事務局】

対象が月齢6か月から3歳になるまで、定員はホームページの数字を見ると、ゼロ歳児が3名、1歳児と2歳児がそれぞれ8名ずつの合計19人の定員で、小規模ながら開所されるというような状態です。

【木村委員】

今ある保育園や幼稚園が、別でやるということですか。それとも新しい保育所ができるということですか。

【事務局】

新しい保育所ができる予定です。

【木村委員】

それはどこにできるのでしょうか。

【事務局】

寒川町の岡田に開所される予定になっています。

【木村委員】

学童についてはいかがでしょうか。保育のニーズが増えるということは学童のニーズも増えていることだと思います。

学童についても、隠れ待機児童がすごく多い印象です。あきらめている方も多いと思います。学童も一般の企業が運営している事例も他市町村であるかと思います。

【事務局】

令和5年度に児童クラブの開所というのは、予定していませんのでございます。

現在、NPO法人学童保育会に行っていると思います。定員よりもオーバーしている中で、例えば学校施設を使って定員の受入れをできないか等調整しております。実際に小谷小は、学童保育の待機児童解消が図られましたので、他の学校においても、今後このような形で、より多くの児童が受けられるよう放課後の学校の校舎を使った形でできないか、教育委員会と調整をしているところでございます。

【木村委員】

例えば支援級がありますよね。支援を受けるような子どもたちの放課後のサービスが、どれくらいあるのかということをお伺いしたい。サービスが少ない印象を受けております。そういう子たちがすごく増えているので、寒川町はどれくらいの利用者がいるのか把握していらっしゃいますか。例えば運動や学習を支援するような施設、事業所があります。寒川町の子で茅ヶ崎の事業所を利用している方が多い印象です。

【事務局】

申し訳ありません。把握しておりませんので、お答えはできないのですが、受け取りのキャパがどのくらいあるのか。福祉課等に確認しないと分かりませんが、確かに今ある課題として、障がい児についても増加傾向の印象があります。

子育てと併せて、2つの面からの支援が必要になります。

確かにこの点については課題だと認識していますので、現状を把握しながら福祉課と必要な対応があるのであれば、それにどう対応していくのかを待機児童数と一緒に、考えていかなければいけないと考えています。

いただきました御意見をもち帰りまして、確認していきたいと思えます。

【木村委員】

クラスの約10%の子が特別支援級の利用が必要など増加していると思えます。働いているお母さんも多く、子供達のためにも利用したいという方が多いので、寒川町も充実してくると、子育て人口にも関わってくると思え、把握したく質問しました。

【事務局】

確かにそういったお子さん方の課題はあると思えます。一方で、そういった障がいのあるお子さんは、それぞれ特性があります。例えば体温調節ができない子もいれば、肢体的な障がいがあるなど、その子によって特性が違います。その対応として、受入れが可能かどうかもあると思えます。そこを含めて、福祉課等に確認したいと思えます。

【千葉副委員長】

先ほど木村委員と事務局とのやりとりの中で、恐らくそのような事例の情報共有が、担当部署と子育て関連のチームの皆様とされてないのかなと感じました。情報共有も推進していただければと思えます。支援する側も必要な情報がないと、支援の組立てができません。新しい保育所ができると地域も含めてそういう体制を組まなければいけない。また、学童についても増やしていただいています。保育所ができたら、学童の定員をこれ以上増やせない可能性もあると思えます。そういうような連携を寒川町内で行い、選ばれるまちにならないというふうには思えます。

【事務局】

承知しました。

【千葉副委員長】

ほかにご質問等ありましたらお願いします。

【横山委員】

寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2期）の概要に記載の将来展望実現へのアプローチにある人口移動率の向上について、寒川町への転入者を増やし、町を活性化しようというプランかと思われます。

これまで多くのマーケティングや広報プロモーション活動をしていることで、寒川町にいいイメージを持って転入されてきたという方が、このような形で増えているかと思われます。これまでの積み重ねもありますが、町への転入率等を少しでも加速させるために、今年以降で新しい取組があればお聞かせください。

【事務局】

ありがとうございます。人口推計では既に減少の段階に入っておりますが、実際は微増の状態です。ただ、他の近隣の市町村を見ると藤沢市や茅ヶ崎市では活発に人口が増えております。その課題としては、寒川町のまちをいいイメージで持っていただくのと、いろんな方に認知していただくことが課題になると思っております。

そういった中では、寒川町では今、ブランドの推進をしております。「穏やかさ、優しさ、あたたかさ」のあるまちだなという印象を持っていただき、いいまちだなと感じていただいて、最終的に住居先、働く場所、遊ぶ場所だとか、様々な形で選んでいただきたいと思います。

そういった中で、ブランドの取組として、「こころ。を灯す」という活動を1月に入ってから実施しております。

プロジェクトチームの中で夜暗くて怖いというお話がありました。夜道も安心して歩けるまちにすることが、寒川町、地域の交流、安心できるまちを目指しているという印象に残るかと思ひまして、「こころ。を灯す」という活動をしております。

具体的には3つのことをお願いしております。地域の中で挨拶をしてもらう。顔が見える挨拶があると、犯罪率も低下しますし、地域で顔が見えると安心して住んでいけると思ひます。あとは、スマホでもいいので、夜になったらライトをつけて歩いてもらっています。今まで町の取組としては、防犯灯をつけ

るといふ取組がありました。犬の散歩をしている人だとか、ライトを持って歩いている人がいると安心できるというお話もあり、ライトをつけて歩きましょうとやっております。

これは副次的にも、車に乗っている方から視認性も高まりますし、自分の安全も守りながら、周りの人が安心できる取組となっております。

最後の一つが、おうちの外灯を少し長い時間つけてくださいとお願いしているところです。防犯灯だけでは、全ての道を明るく照らすことは難しいので、地域の方をお願いしております。さらに挨拶を地域でされると、顔見知りの方の家のライトがついているのは、すごく安心できるという話もあって、この3つを連動させて進めていくことで、地域で地域の安心を守るといふ小さい町だからこそ、できることだと思っております。具体的にはそういった取組をしたいと考えております。

【事務局】

新しい地域にお住まいの方々の安心について、ハード整備的には、田端西地区でございます。こちらについて、寒川南インターの周辺の整備がございまして、今、田端西地区の土地区画整理組合で行っておりますが、来年度の助成金が最大ピークになるはずで、予算はこれから予算審議なので、金額は申し上げられませんが、過去最大の規模で助成額が下りてきます。

まだ令和6年度も助成金がありますが、その先は工業系の仕事生まれることによって呼び寄せる人口もあります。当然そこで、町としての資源投下が行われますので、資源回収をしていかなければならないといったところもあります。ハード的なまちづくりが、これから大きく進んでいく面もあります。

また、昨今、コロナ禍で脱東京の動きがありますが、やはり国全体でデジタル化が進んでいきます。このデジタル化に、寒川町としても乗り遅れないよう様々なデジタル技術を使って、住民の利便性を高めていくというような取組も、これから併せて行っていく予定です。社会インフラ的には情報通信等も強化をしていく予定になっております。このような展開により、町の住みやすさと、先ほど申し上げた小規模保育といった住んだ後の生活基盤も見える化できるというか、住み続けられる基盤が必要になりますので、「移り住む」「住み続ける」の両面か

ら、転入促進と転出抑制の両面から進めていくことによって、人口増加が図られます。

このような展開を令和5年度も強化して進めていく予定になっております。相模川以西の人口減少に危機感を感じておりますが、相模川以東については、まだ微増の状況が続いています。首都圏の脱東京といった受皿として、特に藤沢はまさにそうですけど、寒川まで余波を取り込んで、町の目標人口を達成していこうということで、今現在この金額を置いているところでございます。

【千葉副委員長】

ありがとうございます。他にご質問等ある方お願いします。

【森委員】

横山委員のお話にありましたように、人口減少社会はどこの市町村でも免れないと思います。

先ほどありましたが、人口を増やすことと、顔の見える社会をつくっていくということは逆だと思っています。この推定でいくと、寒川町は2065年に人口約3万5千人と数字も出ておりますが、ちょうど昭和30年代後半ぐらいの寒川町の人口がこのくらいだったかと思います。当時は顔の見える社会が確立されていた。ところが、人口が増えてくるにつれて、だんだん顔の見える社会にならないというふうになっていったかと思います。

世代間のギャップもあって、地域に溶け込まないという人たちも出てきているというのは現実にあると思います。まち・ひと・しごと創生総合戦略は、人口も上げていくというような考え方に基づいて、取組をしたいと思います。その取組をするには、都市基盤の整備をきちんとやっていかないと人口も増えてこないと思います。

例えば、先ほど部長のほうからも話があったように、田端地区の再整備について、なかなか住民の方が、どのような企業が来るのかとか、何も見えないという意見を聞きます。

ましてや、倉見地区に新幹線ということの来るのか、来ないのか分からないというような部分もあります。平塚と寒川を結ぶ新しい橋の建設の計画もある話も聞きました。周りを見ると、平塚ではもうショッピングモールやイオンができたりしてい

ます。寒川は何も見えてきません。新しい橋も寒川の近くに買物に行くだけの橋になったら、必要ないのではないかなと個人的には思ってしまう。担当は違うと思いますが、定住者数を増やすというような都市基盤の整備をするべきかなと思います。

また、海老名はどんどん開発をして、地価も上がっていると思います。固定資産税も入ってくるとなれば、財政でも豊かになってきます。利便性が高くなれば、住もう方も増え、人口増になります。個々の基盤整備をやりながら、施策を推進した方が、より効果的と思っています。

【事務局】

まさに今の寒川町を取り巻く大きな課題について、御意見を賜りました。寒川町の総合計画におきましては、生活中心拠点と称し、寒川駅前の北口地区、それと田端の産業集積拠点ということで田端西地区、残る3つ目の拠点として、倉見の都市未来拠点がございます。これは、新幹線新駅の誘致をベースとしたまちづくりを定義したものでございます。平塚では相模川の西側部分にツインシティの一端を担う平塚のまちびらきが先日行われました。

確かに、ツインシティとして位置づけ、進めていく必要性は我々としても理解しており、取り組んできたところではありますが、相手方の平塚の土地利用状況が農地と違い、寒川町の部分については市街地部分が入っておりますので、当然その買取等、地権者の多くの御理解を得なければならないということで、かなりの時間と多額の費用がかかります。

その中で、町の財政推計に倉見の新駅誘致の投資額を入れると、長期財政推計が成り立たない状況がございます。

これまでも県には技術的支援のほか財政支援についてもお願いしてきております。また、JRが請願駅になりますので、その誘致が確答をもらっておりません。リニア新幹線が橋本にできますので、ダイヤに余裕ができます。倉見にできるというようなお答えをいただいた上で、投資をしていく必要があると思っています。神奈川県にも言うておりますが、なかなかJRからの確答がいただけないことと、財政の見通しが立たないといったところで、着手が進めず、そんな中で倉見の地権者

との協議を現在進めております。

結果として、必要性については、森委員が言われたとおり、将来のまちづくりにとって、この新幹線は、転換期を迎える大きなキーの一つだと思っています。これら課題を乗り越えて、しっかりと都市基盤を進めながらやっていきたいと思っています。

それが人を誘引するということも認識していますし、土地の資産価値が上がりますから、個人資産が上がることになりますので、税収も上がります。そういったプラスのスパイラルをしっかりと捉えて、対応していきたいと考えております。

一方では、寒川町の良さは何だろうということで、町外から転入した方、また町内の方に聞くと、豊かな自然環境といった御意見もございます。単に開発を進めるのではなくて、寒川町の持つこの自然環境を、どのように残し都市基盤を進め、自然と共生できるかといったところもあると思います。

この広い、大きな空が好きだという方もいらっしゃいます。高い建物があると、都内みたいに空が狭くなっちゃうのが嫌だというような、そんな声もあります。そういったところをうまく融合しながら、両面から進めていくかといったところが、まちづくりの大きな考え方になります。これから皆さんとしっかりとお話を詰めて、進めていきたいと思っています。よろしく申し上げます。

【千葉副委員長】

ありがとうございます。他に御意見ある方はお願いします。

【横山委員】

先ほどお話にありました「こころ。を灯す」活動や、資料にもあるような若い子育て世帯向けの施策を考えている状況で、当然ですがプロモーションも大変です。あまり予算をかけるわけにいかないかもしれませんが、ぜひともうまく活用いただきたいです。私どももお力になればと会社として考えております。

【千葉副委員長】

ありがとうございます。他に御意見ある方はお願いします。

【木村委員】

魅力的な教育環境事業について、学校の再編のお話があると思います。どうしても再編しなければいけないのでしょうか。この委員会で、どういうふうに捉えていて、どのように考えていらっしゃるのかお伺いしたいです。

【事務局】

学校再編につきましては、どうしてもそうしなければいけないということではなく、そこを今検討しております。ただ、今後の児童生徒の人数や学校施設の老朽化について、どうしても建て直す時期に向かって、財政的な面も確保し、また、子どもの教育に関して、何が望ましいのかを総合して検討して、今後のあるべき姿を今、検討しております。

必ずなくすことがありきではなくて、子どもの教育環境というものが、今後の人口も見据えた中で、どの体制が望ましいかといったところを検討しているといったところでございます。

しかしながら、なくすことはおそらくします。子どもたちの数が減り、1つの学校に通う子どもが減ると1クラスつくれるかどうかという問題に直面します。また、公共施設の約6割は教育施設です。

老朽化する公共施設を全部更新すると、約22億円のマイナスが発生します。町全体の財政として、約22億円の赤字が出てくる話が、公共施設再編計画の中で提起をされまして、学校適正化検討委員会が開催され、財政といった前提条件がありつつも、子どもたちの為にこれからの教育をどうするべきかを踏み込んで検討しています。

1クラスがつかれないとなった場合、例えばそこに何か事があつたとき、クラス編成もできません。6年間ずっと一緒だということで、子どもたちのつながりも構築できません。体育祭や部活もできないとかそういう話になると思います。

これからの教育において、例えばデジタル化が進んでICT教育をやっていくと、今の学校の分かれた教室のあの形態が本当にいいのかとか、自由度の高いオープンな学校の校舎の構築がいいとか、いろいろと課題があるわけで、学校の在り方も含めて、検討を進めています。

学校適正化委員会の中では、8校を6校にすると動いております。6校にするのであれば、こういった教育が必要なのかを協議をしておりますが、結論が来年度の春先過ぎぐらいには出ると思いますけども、おそらくそこでも全部は決まらないと思います。当然その後に、保護者の方や様々な方と協議していくことになると思います。全てを明らかにして皆さんとお話をこれから詰めていくことになるかなと思います。

ただ、先ほど申したとおり、今のままいけば、公共施設の更新問題で赤字になる事実はあります。先ほど森委員の話がありましたけど、子どもが減ってくることはもう事実です。それをいかに減らさずに、頑張るかが地方創生でありますけども、今、生まれてない子どもや住んでいない子どもが20歳になったら、8歳になったら、小学校入学するときになったら何人になるかは、もう推計値で出ていますので、この推計値に合わせた学校の在り方を考えなければなりません。

昔は中学校1校と小学校2校ぐらい少なかったです。我々の時代はたしかそうだったと思います。人口が増えるに当たって、小谷小、南小ができました。今度は人口が減るということは、学校数もおのずとそれに連動してくるという考え方になるかなとは思っています。

ただ、そのときと交通の状況は違います。当然、車の通りが激しく、交差点も多くなっています。開発によって交差点も多くなっています。通学路の安全性等様々な課題があると思いますので、学校再編と併せて、皆さんと協議しながら、丁寧に解決策を模索していく必要があると思っています。

それは公共施設の再編と学校の適正化の話であって、町の地方創生としてどう見るかといったところは、現実は現実として受けていかなければいけません。先ほどいった教育について、グローバル教育とかICT教育といった教育の質を上げ、それによって、皆さんから寒川町で育てたいと思ってもらえるような町をつくっていく必要があると思います。

【千葉副委員長】

ありがとうございました。木村委員、大丈夫でしょうか。

【木村委員】

はい、そうですね。学校がきれいだったりとか、場所がいいとか、そういう面を見て入ってきたりします。災害を考えたときも例えば川の近くである等の要因はありますよね。大きな道路を渡るとか、通学路の大変さ等、全てを踏まえて、魅力的な寒川の学校が構築されると良いと思います。

【千葉副委員長】

ありがとうございました。他に御意見ある方はいらっしゃいますか。

【橋委員】

当社の事情ですけれども、私どもの倉見工場もここ5、6年で、従業員が150から200人ぐらい増えました。今度の4月も新入社員と中途採用の方を含めて60の方が、新たに工場に入ってきました。60人のうち20人は地元の方ですけども、残り40人は県外から転入してこられます。

その受入れをやっている中で非常に感じるのは、寒川町は住むところがない印象です。当社で持っている社宅や寮はいっぱいでして、入ってくる人たちに会社で住居を借り上げて、提供したいと思っていますが、寒川町には残念ながらそういう物件はなくて、茅ヶ崎や海老名のほうで、新築の集合住宅とかどんどんつくられていますので、そこを棟ごと借りて、そこへ住んでもらうということをせざるを得ないという事情もあります。

転勤組も結構多いですけれども、寒川町は子どもの支援も非常に手厚い町なので、寒川町に住むことは、やぶさかではないですけれども、そもそも物件がないということで、海老名が便利とか、茅ヶ崎が便利という以前に、住む場所が選べません。多くが海老名もしくは茅ヶ崎のほうに住まわれて、そこから通勤されているというのが現状です。

住居がないという問題に関して、今回、このいろんな計画の中では、一つ視点になると思っています。転入者の住む場所という施策が必要ではないかと仕事をしながら、日々感じています。

工業協会のメンバーに、こういう話をしたことないので、実態がどうかは聞いたことはないですけれども、少なくとも当社においては非常に残念な結果になっています。御検討のほど、

よろしくお願ひします。

【事務局】

ありがとうございます。その辺が、私どもも情報として足りておりません。現状を今お伝えいただけましたので、担当部署と連携をとり、まち・ひと以外にも総合計画もごございますので、そちらも併せて、検討を進めていきたいと考えました。御意見ありがとうございます。

【千葉副委員長】

ありがとうございます。御意見ある方はお願ひします。

【吉田委員】

労働者の立場で、橘委員からもありましたけど、まさに寒川町内の企業に勤める従業者で、まず、寒川町に住んでいて、企業に勤められる方、また、寒川町外から寒川町に勤めに来る方で、どれだけの規模なのかと、やはり寒川町の良さを企業に伝え、企業内から寒川町外から来ている方に対してアピールをしていかないといけません。少子高齢化の中で、寒川に住み、結婚して、子どもを産み、出生率を上げていかないことには、人口の増加につながっていかないと思います。また、住居が建てられる場所もないというふうな話があると、なかなか難しいかもしれませんが、例えば、家を寒川に建てた場合に、補助金とか福利厚生的な何かお考え等々があれば、お聞きしたいです。

【事務局】

まず、勤労者の人数は細かく把握しておりませんが、昼間人口と夜間人口というのがありまして、0.98だったと思います。要は、夜も昼も人口が変わらない。寒川の通勤圏って、大体横浜ぐらいですけども、それから、茅ヶ崎とか藤沢辺りから寒川に来る方が多いかと思います。寒川町は工業が多いので、そういったところから昼間人口が、それほど変わらないということで、私どもはそれをポテンシャルだと思っています。

まちづくりとしての有益性がかなり高いので、優れている部分だと、民間企業の皆様に感謝しているところであります。

そうした中で、より多くの方が寒川町に住んでいただける為

に、新築住宅の取得奨励金という形で、そこについては補助金を創設して、あとリフォームについても、補助金が出ております。そこについては勤労者対策でやっておりますので、通常の事業者は対象外になってしまいますが、そういった対策も打ちながら、寒川町に居を構えていただけるよう取り組んでいるところがございます。例えば10万円で、引っ越してくる本当の誘因になるのかどうかの検証が必要だと思います。それだけではなく、他の政策、先ほどの子育てといったところを充実した中で、一つのパッケージとして周知するほうが、よろしいかなと思っております。

また、来年度考えているのが、食堂がある企業さんはトレーがあると思いますけど、そのトレーに町のPRや制度周知ですか、内部ではそのような議論が多々あります。そういったことをどんどん出していきながら、より多くの方に寒川町に住んでいただけるよう、取り組んでいきたいと考えています。以上になります。

【吉田委員】

私の会社でも、組合を通じて、新築を建てたら補助金がある旨を周知しておりますが、教えてあげて初めて知る方もいらっしゃいます。ホームページ等々も寒川町はすごく活発に活用されていると思いますので、引き続き情報発信を継続してやっていただけると、すごくいいかと思えます。

【千葉副委員長】

ありがとうございました。続けてございますか。

【大山委員】

話が戻ってしまうのですが、先ほど部長からも御意見あったように、学校再編についてです。学校が1校減るって、はっきりおっしゃられたと思います。少子化の状況を見ても、当たり前だと思いますけど、学校って、防災の拠点にもなると思います。まち・ひと・しごと創生ということで、このまま、いたずらに移住者を増やしても、その後、継続性がなく、安心して住めないまちだと困ると思います。どうお考えですか。

【事務局】

確かにもっともな話です。まずは命を守ることが最優先ですし、災害は本当にいつ来るか分かりません。切迫性が高まっている中で、防災が皆さんから求められることだと思います。

現在は、各小・中学校が避難場所になっている中で、機能を失っていいのかという議論は当然あると思います。

例えば学校を1つ無くしたとして、残地の利活用の中でそのエリアはどうすべきだといったことを考えていく必要があると思います。

ですから、学校の機能は統合するものの、残された土地をどうするかという課題は、また別というふうに私は考えております。私も学校再編の検討委員会の委員の一人でありますので、委員からも、そういった御意見が出ていることは当然、承知しています。町として、行政は町民の財産や生命、暮らしを守るものが最大の使命ということで考えておりますので、そこについて、町民の皆さんと十分に詰めていく必要がありますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

【千葉副委員長】

ありがとうございます。一通りの目標、施策について御意見をいただきました。委員長から何かありますでしょうか。

【梅村委員長】

ありがとうございます。音声が悪く、皆様方の御意見すべてをうまく聞き取れたわけではありませんが、寒川町の将来を考える中で、皆さんの御意見は非常に勉強になりました。

少しだけ、私のほうから、お話をさせていただきますと、私はアメリカのポートランドにおりまして、ここはすごく地域自治が高いまちと言われ、それを学びにきているところです。

コロナ禍でなかなか開催できていなかったと思ひますが、こうした対面で会議をして、皆様の声を聞くことを改めて大切だと感じました。事業を進展していく中でも、皆様方の多種多様な考えをおのおのが答えを探していくシステムは、やはり委員会の本来の趣旨だと思ひます。

【千葉副委員長】

ありがとうございました。特になければ、議題（2）をいったん閉じ、議題（3）その他の事項をお願いします。

議題（3）その他

【事務局】

資料に沿って、デジタル田園都市国家構想総合戦略（案）概要を説明

【千葉副委員長】

ありがとうございました。こちら、報告事項ということで、お目通しをしていただければと思います。事務局から他にございますか。

【事務局】

今後のスケジュールについて御案内いたします。

今期の委員を務めていただいております皆様におきましては令和5年5月31日で任期満了となっております。

新たな委員による委員会につきましては、令和5年8月頃を予定しております。議題は今年度実施している総合戦略の検証についてでございます。詳細については後日、御連絡させていただきます。

また、これまでの会議につきまして、新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて、書面による会議を行ってまいりましたが、今後は対面会議を基本にオンラインによる開催も検討してまいりたいと考えております。

【千葉副委員長】

ありがとうございました。梅村委員長、特段なければこのまま締めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【梅村委員長】

どうもありがとうございます。千葉副委員長、本日は進行ありがとうございました。それでは、本日予定されていた議事についてはこれで終了となりますので、事務局にお返しします。

	<p>【事務局】</p> <p>本日は誠にありがとうございました。委員長をはじめ、各委員の皆様への御協力に感謝申し上げます。</p> <p>今後の事業推進につきましては、本日、賜りました貴重な御意見を担当課と共有をいたしまして、事業を推進していきたいと考えておりますので、今後とも引き続きよろしくお願いいたします。</p> <p>次の会議は来年度8月を予定していますが、そのときには令和4年度の事業報告になります。今回、御意見いただきすぐに回答できない部分もございまして、御迷惑をかけた部分もありますが、担当課を呼ぶような形も考えていきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>コロナ禍の中で、思うように対面での会議を開くことが難しい時期もございましたけれども、書面会議を通じて、我々職員気づかない多方面からの御意見を頂戴することができました。本当にありがとうございました。</p> <p>今後も、地方創生のためには、行政だけではなく、町を取り巻く多様な団体や個人との協力が不可欠と考えております。引き続き町政への御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。</p> <p>委員の皆様におかれましては、本当にお世話になりました。ありがとうございます。</p> <p>それでは、これを持ちまして、令和4年度第2回寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定等外部委員会を終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。</p>
<p>配付資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2期）の概要 ・ 寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2期）令和5年度実施事業一覧 ・ デジタル田園都市国家構想総合戦略（案）概要
<p>議事録承認委員及び 議事録確定年月日</p>	<p style="text-align: right;">梅村 仁 （令和5年4月26日確定）</p>